第五四師団第一野戦病院部隊

年月日	概要
	部隊は歩兵第一一一連隊補充隊に於て、臨時召集並に姫路周山各陸軍病院転属者に依り
	第五四師団第一野戦病院を編成
昭八、四、四	病院長陸軍々医大尉、大谷則二以下総員二四二名（別表第一）に依り動員完結す
	待命間業務
	歩兵第一一一連隊補充隊及び元歩兵第一〇連隊兵舎に於て戦時衛生勤務令並に諸法規に基く教育訓練を実施すると共に出動準備を完了す
	輸送間業務
六、元	宇品港出発
七、二四	仏印西貢に到着すると共に輸送の関係上堂元薬剤中尉以下七〇名上陸し、部隊々貨を泰国経由陸路「ペナン」港に輸送せしめると共に、部隊主力は
七、元	暹南港に上陸し、陸路「ペナン」港に集結
八、九	乗船
八、天	緬甸国蘭貢に上陸す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	病院開設の概要
昭八、九、一〇	部隊主力は第五五師団第二野戦病院「タンカップ」患者療養所を継承し「タンカップ」第五四師団第一野戦病院を開設す
一〇、六	有田軍医中尉以下二七名は、歩兵第一二一連隊第一大隊長の指揮下に入らしめられ
一一、一	「キャクピュー」県「オンドウ」に患者療養所を開設す
一〇、八	佐藤軍医中尉以下二二名は、歩兵第一二一連隊、第三大隊長の指揮下に入らしめられ「サンドウェー」県「サンドウェー」に於て
一〇、一四	患者療養所を開設す
一〇、一四	中川見習士官以下四名「エボチ」（アラカン道）に於て、患者救護所を開設す
一二、一二	田地野見習士官以下五名「キャクピュー」県「ラングダリー」に於て患者救護所を開設す
一二、一〇	熊沢軍医少尉以下一五名「キャクピュー」県「ギャグ」に於て、患者集合所を開設す
	行李班は部隊の集結完了と共に輜重兵第五四連隊集成自動車中隊編成せらるに及び、六郷伍長以下三〇名を自隊自動貨車一五車輌と共に派遣す
昭九、二、三	病院長大谷大尉は、南方軍燃料廠附に補せられると共に、関東軍兵器廠より、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	陸軍軍医大尉　山崎淳一　新病院長に補せらる
四、一四	赴任す
	兵団兵力配備の変更に伴い部隊主力は
昭五、三、一〇	第五四師団第四野戦病院に其の業務を移譲し「キヤクピュー」県「ラムレ」島「ラムレ」に病院開設を命ぜられ、連絡所長　中山書長以下一〇名を「タンガップ」に残置し
五、一五	「ラムレ」第五四師団、第一野戦病院第一半部を開設す
五、二五	「サンドウェー」患者療養所を閉鎖すると共に、オンドウ患者療養所要員を命ぜらる
三、八	「エボデ」患者救護所は第五四師団第四野戦病院に其の業務を移譲閉鎖し、主力に復帰す
三、三〇	「ギヤグ」患者集合所は第五四師団第二野戦病院に其の業務を移譲閉鎖し、主力に復帰すると共に、一部人員を「オンドウ」患者療養所勤務を命ず
四、五	「オンドウ」患者療養所は、閉鎖すると共に第五四師団第一野戦病院第二半部を開設す
八、六	「ダウングップ」地区に「コレラ」患者発生の為「コレラ」防疫要員として、山本蔡創少尉以下四五名を第五四師団防疫給水部に派遣す
八、一〇	細川軍医中尉以下一〇名「チエドバ」島「チェドバ」に開設しある第五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭九、五	四師団、第四野戦病院第二半部の業務を継承し患者収容所を開設す 兵団警備地区の変更に伴い「オンドウ」第五四師団第一野戦病院第二半部を閉鎖し、同要員並に部隊主力より兵一〇名増派し、
九、二〇	「キャクピュー」県「メイ」に患者療養所を開設す
一〇、二七	「メイ」患者療養所より入江中尉以下二〇名を以て、「ギャグ」に第五四師団衛生隊の開設しある療養所を継承し患者療養所を開設す
九、二〇	兵団警備地区変更の為「ラムレ」第五四師団第一野戦病院第一半部は閉鎖し、武田軍医中尉以下二三名に其の業務を継承療養所を開設せしめ「キャクピュー」県「セカンタン」に移動す
一〇、一	佐藤軍医少尉以下一八名を以て、第五四師団、第二野戦病院の開設しある「ドカン」患者療養所を継承開設す
二、一〇	「セカンタン」第五四師団第一野戦病院を開設す
二、二〇	「ドカン」患者療養所を閉鎖し、部隊主力に復帰す
二、二〇	「メイ」患者療養所を閉鎖し、部隊主力に復帰す
二、二五	「セカンタン」第五四師団第一野戦病院は、第五四師団第二野戦病院に業務を移譲、閉鎖すると共に、有田軍医大尉の指揮下に入らしめる 「コレラ」防疫要員として、第五四師団防疫給水部に派遣中の用地野見習士官以下九名患者輸送隊第七一小隊に配属す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、三〇	患者輸送隊第七一小隊に配属中の団地野少尉以下九名部隊主力に復帰す
二、一	の間に亘り第五四師団防疫給水部に派遣中の山本薬剤少尉以下三六名は逐次、部隊主力に復帰す
二、二	以後に於ける部隊の行動概要
	第一半部の行動概要
二、五	部隊主力の移動に先だち、川居軍医中尉以下一〇名は「サンドウェー」県「クウ」に第五四師団第一野戦病院「クウ」其他療養所を開設す
二、六	部隊主力の到着と共に、患者療養所の業務を継承し「クウ」第五四師団第一野戦病院第一半部を開設す
二、一三	「ティドバ」患者収容所は戦況の急変に伴い閉鎖部隊主力に復帰す
二、八	「クウ」第五四師団第一野戦病院第一半部は、赤木軍医中尉以下一五名に其の業務移譲を閉鎖すると共に「ニューアンギョ」（第一アラカン道）に向い、移動を開始す
	赤木軍尉中尉以下一五名は歩兵第二一連隊長の指揮下に入らしめらると共に「サンドウェー」県「セレー」に移動引続き患者療養所を開設す
二、二〇	「ニューアンギョ」第五四師団第一野戦病院第一半部を開設す
三、一〇	「ニューアンギョ」第五四師団第一野戦病院第一半部は第五四師団第四野戦病院に其の業務を移譲閉鎖すると共に「ミンブ」に向い移動を開始し 急隊貨を

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	「プロローム」及「セダン」に残置し、「プロローム」に西衛生中尉以下一七名に主力追送隊貨の輸送に任せしむ
三、一〇	「セレー」患者療養所は、其の業務を第五四師団第四野戦病院に移譲閉鎖し部隊主力に復帰す
三、一七	部隊主力は「ミンブ」第五四師団第四野戦病院患者療養所の業務を継承し「ミンブ」第五四師団第一野戦病院第一半部を開設す、引続き法橋軍医少尉以下八名を以て「ゴア」第五四師団第一野戦病院患者療養所を開設す
四、一二	第二半部より移動治療班に派遣中の木村軍医少尉以下八名は昭和二〇年四月一五日、部隊主力に復帰す
五、一二、二二	これより先、敵は、莫大なる物量を投じ「ラムレ」島、西北地区に有力なる部隊上陸す「ラムレ」患者療養所は収容患者並に隊貨の送に任しありしも、療養所を閉鎖戦斗救護班を編成し、五〇人高地に至り傷者の救護に任す
二〇、一、二二	更に、戦況急迫せるを以て「ラムレ」島より転進を開始するも、敵は、看護民船利用の転進て備へて艦艇飛行機による警戒頗る厳重にして転進意の如くならず、辛じて、同年二月二五日、所長　武田軍医中尉以下五名、反軍圏内にある「メイ」に上陸引続いて三月二五日、前川少尉以下七名「ギヤグ」に上陸したるも、この時、六名の尊き犠牲者を出す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇 四、五	「マグエ」に有力なる敵機動部隊侵入し、「ミンブ」側に猛砲撃を加え来たると共に病院開設地も危険にさらさるに及び兵団命令に基き、
四、二	砲撃下の中を自隊自動貨車にて患者並に隊員を「ミンブ」県「インジオン」に移動を開始し
四、三	完了するも情況益々悪化引続き「パタン」に移動業務を続行す
四、六	「ゴア」患者療養所は閉鎖し、本隊に復帰す
四、八	輜重兵第五四連隊に転属中の衣部伍長以下二〇名本隊に復帰す
	部隊は「パタン」に於て、収容せる患者を自隊自動貨車並に、患者輸送隊等に依り全力を以て「カンドック」第五四師団第二野戦病院に転進すると共に、佐藤軍医大尉以下一五名に其の業務を移譲し、患者療養所を開設せしめ、主力は、「カンドック」に移動を開始し
五、二	完了す
五、三	佐藤軍医大尉は患者療養所を閉鎖し、収容患者の護送に任じつゝ「カンドック」に在る部隊主力に復帰す
五、四	兼水軍医中尉は、部下四〇名を指揮し、兵団「イラワヂ」河渡河地点たる「カマ」に向い移動を開始す
五、七	部隊主力は、衛生材料並に隊貨自隊患者を自動貨車にて兵団「イラワジ」渡河地点に移動を開始し、転進途中「イナマ」附近に於て敵の空挺よりする猛攻撃

2083

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	を受け、之が為、自動貨車並に総て隊貨の処置をなすと共に傷者の収容に任しの
五、二四	集結完了すると共に工兵第五四連隊の援助のもとに全員「イラワヂ」河を渡河
	之より先に渡河せる赤木軍医中尉以下四〇名、並に、第二半部より転進途中の佐藤軍医少尉以下八名を復帰せしむ、此処に於て部隊は兵団主力と共に「プロ
	ーム」街道突破
六、三	「パウカン」（プローム東北四〇粁）に集結す
	此処に於て、「パロー」附近に於て、戦斗救護班を編成しありし、前川軍医少尉以下六名復帰す
六、一〇	部隊は収容患者と共に「ペグー」山系集結地たる一六二八高地東側に向い移動を開始すると共に、細川軍医中尉以下二〇名をして部隊糧秣（一ヶ月）を現地牛車を以て搬送せしむるも、雨季の為、道路悪く、輸送意の如くならぬ、遂に部隊主力と行動を共にするを得ず
六、一三	敵と遭遇糧秣を放棄するの止むなきに至り部隊主力に遅る事三日半して
六、一八	主力に復帰す
六、二五	部隊は、「ペグー」山系（一六二八高地東側）に集結、
	次期作戦準備の為待機す、此の間、輜重兵第五四連隊に配属中の六名復帰す
七、一八	「シッタン」平地突破作戦の為、歩兵第一五四連隊長の指揮下に入らしめられ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	ると共に工兵第五四連隊に木下軍医少尉以下七名捜索第五四連隊に高田軍医少尉以下七名夫々配属せしめ部隊は収容せる患者を担送し、第二集結地たる水庭支隊集結地（イピニテ）に向い移動を開始し
六・一二	到着
六・一七	水庭支隊と共に行動を開始
六・二〇	山系を出て「マンダレー」街道を突破
六・二二	未明「トングー」東南六粁「シッタン」河畔「ウェジー」部落に到着
六・二三	未明「シッタン」河強行数前渡河を決行
六・二七	「シャン」高原集結地たる「ランダエ」に集結す
八・一	再び、移動を開始したるも、途中
八・一三	午後、九時二〇分部隊長山崎少佐敵の攻撃に依り戦死さる
八・一九	兵団集結地たる「イワガレ」に集結す。
	此処において、兵団の指揮下に入り、歩兵第五四連隊と共に
八・二三	転進を開始
八・二六	転進途中「ミンセダイク」に於て、停戦の大詔渙発の命令を受領し開始し、
九・五	到着
	先に到着せる第二半部の入江軍医大尉の指揮下に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	西隊の行動
昭二〇、三、一三	西中尉以下一七名は、「プロローム」に在りて残置隊員を掌領し部隊主力に逆及すべく待機中
四、二〇	ボニ八軍の命令に基き「ラムレ」島より転進途中の前川軍医少尉外九名をして、戦斗救護班を編成せしめ「アランミョー」「ペロー」附近に派遣す
五、一	敵の「プロローム」侵入により西隊は「セダン」に在りし材料監視兵四名を、併せ指揮し「プロローム」地区の残留兵団諸隊と合し転進行動を開始し
五、二〇	「シッタン」平地突破の為「ペグー」山系を出発
五、二二	「シッタン」河を渡河「シャン」高原を経て転進を続行
八、二四	「マルタバン」に在りし入江軍医大尉の指揮に入る
	ボニ半部の行動概要
	ボニ半部の主力の行動
五、二、二〇	ボニ半部長、有田軍医大尉以下七二名は、ボニ八軍の直轄となり「セカンタン」に待機す
二、二一	「アキヤブ」方面の戦況必迫するや木村軍医少尉以下八名を移動治療班編成の為派遣す
二、五	「エナンジョン」に向け移動を開始するも途中ボニ「アラカン」道（「アン」附近）に於て、西谷衛生准尉以下一九名を工兵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	第五四連隊に配属せしめ陳地並に道路構築に従事せしむると共に、残余のものは「トンゲー」附近に於て、陳地構築に任す
二、末	「イエナンジョン」並に「マグイエ」に夫々病院開設の命令に接し
昭一〇 三、二	有田軍医大尉は「イエナンジョン」に第五四師団第一野戦病院、第二半部を開設し入江軍医中尉以下一七名をして同年
四、一	「マグイエ」に於て患者療養所を開設せしむ
四、一〇	戦況益々必迫するや収容患者と共に転進行動を開始
四、一四	「ミンゴン」県「ミンゴン」に到着
四、二五	再び、移動を開始し「イジョンゴン」河「カマ」上流入粁地点より民船（五隻）二分乗「プロイーム」に向い行動中「カマ」下流に於て、両岸より敵の攻撃を受け五隻の舟は四散し、佐藤少尉の舟のみ右岸に上陸、其の後、本隊と同一行動をとり、他の四隻は、左岸に上陸、夫々別個の行動をとり転進、「プロイーム」「パウンデ」と敵中を突破し「ペグー」山系に入り
五、三	頃、「シッタン」河を渡河「シャマン」高原を南下したるも小数部隊の為、反乱軍に乗ぜらるところとなり、有田大尉以下、多数の戦死者、生死不明者を出し、生存者、吉川軍曹以下、僅かに五名
八、一四	「マルタバン」に於て入江大尉の指揮に入る
	「マグイエ」患者療養所の行動

2087

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

34の外

年月日	概要
昭二〇 四一	入江軍医中尉以下一七名は「マグヂ」患者療養所ヲ五四師団ヲ一野戦病院を開設するも、入院患者激増するを以てヲ二半部より松村軍医少尉以下一〇名増強さる
四、元	有力なる敵機動部隊侵入するや所長入江軍医中尉以下は入院患者と共に「イラワヂ」河右岸に集結
四、二	転進行動を開始
五、七	「オッポ」東方「ペグー」山系に集結す 直に、ヲ五四師団ヲ四野戦病院の指揮下に入り入院患者の護送、並に、戦斗救護班の任務に従事す
五、元	賛徹部隊、向井少佐の指揮下に入り
七、二〇	「シッタン」平地突破作戦の為「ペグー」山系を出発
七、二二、	「マンダレー」街道を突破
七、二三	「インゴン」部落に集結し、敵機動部隊の攻撃を受け松村少尉以下四名の戦死者を出す
七、元	「シッタン」河渡河
八、五	「シャン」高原ヲ一集結地に到着
八、二〇	「モールメン」に到着す
八、二二	兵団集結地たる「ナェヂヤン」に集結完了

2088

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
九、五	部隊主力の堂元葉剤大尉以下一三名を併せ指揮す
	遺作戦行動概要
二〇、四、九	「マグエ」に敵機動部隊侵入するや部隊は、第一半部、第二半部「マグエ」患者療養所「プロローム」に在りて隊貨牢領として待機せる両隊と夫々別個の転進行動を開始せるも、優勢なる敵の空陸よりする攻撃は激烈にして、我が行動は殆んど、夜間隠密行動のみに制限せらる遺作戦間「ペグー」山系「シッタン」平野「シッタン」河渡河等に於ける各隊―行動概要は、概ね、既述の如くなるを以て、特に第一半部（本隊）の行動に就て述んとす部隊は「イラワヂ」渡河前
五、八	頃、「エナマ」附近に於て、自動貨車を処置してよりは患者の輸送は、専ら、担架のみに依り、搬送する情況にして頗る困難を極む、加ふるに、雨季に際会して泥濘膝を没する難路、湿地帯中の行軍は言語に絶するものあり
六、一〇	頃、ペグー山系内に集結を完了したるも、逐次糧秣の欠乏を来たすに至る、然れども、人跡未踏の山中に之を求めることを不可能にして野草、木の芽、籐等を主食とする有様にして矢頁の体力消耗、甚だしく、強度の栄養失調におちいり、遂に、餓死者を出せる現況に立至れり
七、一〇	愈々、山系を出る
七、二二	未明「トングー」東南六粁「シッタン」河畔「ウェジー」部落に到着

2089

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
七 二三	午前三時より個人筏により渡河を開始す
	時恰も、雨季最中にして、増水甚だしく水流急渡河地点又地形的に恵れず、加うるに、対岸に敵情あり渡河甚だ困難にして、カ泳の甲斐なく渡河に成功せるもの一〇〇余名中僅かに二八名に過ぎず、渡河後も、依然として難行軍にして就中「イシャン」高原中の泥濘の急坂路反乱軍の出没は部隊の行動を著しく、阻害し多くの犠牲者を出し、部隊長、山崎少佐の戦死されたるも、この当時なり斯くて
八	
商	停戦の大詔渙発の命令を受領する迄、実に、四ヶ月の長きに亘り今次大作戦に参加、其の間部隊編成定員二四二名中一七〇数名に及ぶ戦死者、戦病死、生死不明者を出せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

35の内

第五四師団第四野戦病院兵第一〇一二六部隊

年月日	概要
昭八、二、二七	臨時編成下令
四、四	編成完結
五、四	担任部隊　歩兵第一一一連隊補充隊
六、九	内地港湾出発
自七、二、三	戦地上陸（昭南） 東部印度防衛並に次期作戦準備
自一九、三、三	ビルマ空地防衛強化
自五、三、二	「ハ」号作戦参加
自五、六、二	「宏」作戦参加
自八、六、一五	「遥」作戦参加
九、一	終戦部隊集結地、ビルマ国クトン県チュジャン

2091

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五四師団病馬廠部隊

年月日	概要
昭八、二、一七	臨時編成下令
三、五	動員捜索第五四連隊に於て編成（第一日）下令
四、四	編成完結
五、八	風呂派遣のため宇品港出帆
六、三	東部風呂 スラバヤ港に上陸
六、二四	マラン着、防衛作戦業務に従事
七、三	緬甸に転進の為マラン出発
七、二四	スバラヤ港出帆
八、一六	蘭貢上陸
九、六	ペグー着
一〇、二	ペグー出発
一〇、四	レバダン着
一八、一五、六	空地防衛並に次期作戦準備に従事
五、二、一〇	タラワジ県に在りて「ハ」号作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭五 六 一〇	「完」作戦参加
六 一〇	蓮作戦参加
五 二 以降	タンカップーメイーメイサンジョウー チョミジョウー を経て（オーアラカン山岳突破）— オニアラカン山岳突破） イラワヂ河 —（カマ附近）
	渡河 — ペグー 山系突破 — シッタン平野を経て「シッタン」河を渡河（ビリ附近）— シャン高原に至り、南下チェヂヤンヂー」に至り
昭二〇 八 一四	終戦となる
自終戦 至三 六 以降 五	緬甸に於て連合軍要求作業に従事
三、六、五	蘭貢に乗船出帆
七、三	宇品着
七、四	復員完結
	歴代部隊長
	オ一代 陸軍獣医大尉 吉田国徳
	オ二代 〃 三木隆
	オ三代 〃 林昇
	オ四代 陸軍獣医務大尉 高野幸造

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

沖五四師団防疫給水部

年月日	概要
昭六、二、一七	臨時編成下令
四、四	編成完結
	編成担任部隊　野砲兵第五四連隊補充隊
五、二三	内地港湾出発（宇品）
六、七	戦地上陸（昭南）
六、一九	馬来泰国境通過
一六、二〇	泰国駐留
九、一一	泰緬国境通過
九、一三、二〇	「ハ」号作戦参加
一〇、五、二一	「完」作戦参加
一〇、八、一五	「蘭」作戦参加
九、四	「ビルマ」国「タトン」県「チェダヤン」に集結

2094

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五四師団衛生隊

衛生隊長　団中大佐

年月日	概要
四八、四	姫路市に於て編成完結
五	以後南方派遣の為、担架第一、第二、第三中隊、宇品港出帆第一中隊は「マライ」警備
六、六	第二、第三中隊は「シンガポール」警備に就く 南方派遣の為、本部車輌中隊 門司港より宇品港出帆 緬甸に到着
八、九	緬甸に集結以後、空襲防衛、並に次期作戦準備
五、三	配置、本部担架第三中隊車輌一小行李一分は「パウンデ」　担架第一中隊車輌 一小行李衛生部　各一分は「ラムン」島 防衛地区変更の為、移動す
九	本部担架第一中隊車輌一小行李、一分は「ギヤグ」地区防衛隊（長衛生隊長、田中大佐）として「ギヤグ」に位置す 担架第三中隊車輌一小行李衛生部各一部は「アキヤブ」に至り、松支隊（長第五四歩兵団長木庭少将（基幹）は「タンガップ」地区隊長歩兵第一二一連隊長佐大佐の指揮下に在りて「ラムレ」島に位置す 一部配置変更さる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	担架第三中隊（含配属）は、「アキヤブ」より「ミヨホン」に移動す
	担架第二中隊配属車輛一小隊は「ラムレ」より「サンドウェー」県に移動す
昭和五、六、二〇	遊作戦参加（全部隊）
	（損耗）戦（傷）死三、戦病死八、生死不明なし　計二名
昭和五、三、二〇	「ミヨホン」附近「ミエボン」「カンゴウ」附近の戦闘に参加（担三中基幹）
	患者収容並に後送任務に従事し「カンゴウ」を経て「ゼカンタン」に転進す
	（損耗）戦（傷）死一六戦病死六　生死不明一　計二三名
五、一〇、二九	「ラムレ」島及び「タンガップ」附近の戦闘に参加（担二中基幹）
	英印第二六師主力は一月二十一日より「キヤクピー」附近より上陸し来るに対し
	元に反撃を加え、患者収容並に後送任務に従事し「カンゴウ」を経て「ゼカンタン」に転進す（損耗）戦（傷）死　六　戦病死一、生死不明四三　計五〇名
	生死不明者中数名に入ゆ上陸者六名
四、四	担三中隊、同配属部隊担一中隊一小臨時編成、戦闘救護班城移動治療班
二、天	夕、「ルイワ」附近に上陸せる敵（英印第二五師、西防第八一師の一部）の北進せるに対し中地区隊（長歩兵第二一一連隊長、矢水大佐）は九九〇高地附近に於て撃砕退却せしむ
	（損耗）戦（傷）死九戦病死一、生死不明三　計一三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一〇 四	松支隊配属中の担架第三中隊（含配属）は「シンゴンダイン」に於て、本隊に復帰す
四、一五	「レモー」附近の戦闘に参加（本部担一、三中車輌二小及び行李二分）
三、二	部隊主力は、師団命令に依り、「ギャグ」地区防衛隊の任務を解かれ、「アン」既設陣地に集結の為、転進、「シンゴンダイン」に於て待機中れん。高地正面の敵（西防第八一師の各一部なるものの如し）に対し出撃す（損耗）戦（傷）死一、其の他なし　計一名
三、四	師団命令により「アラカン」以東に転進への為、主力「シンゴンダイン」発、「ゴーワ」を経て「カマ」に至る間の患者護送に任す
四、二五	「イラワジ」平地の戦闘及び「イラワジ」渡河の戦闘に参加（全部隊）軍命令に基き師団は、「アラカン」以東に転進部隊主力は「シンゴンダイン」―「ゴーワ」―「カマ」道を一部（担二中基幹）は「タンガップ」「第三ピン」―「ミヤナゴン」道を各所に於て敵の妨害を排除しつつ患者の輸送に任す（損耗）戦（傷）死三五　戦病死四、生死不明一）　計五〇名
五、二五	生死不明者中敵きに入りたる者（二名）
五、六	「プロームー」街道突破作戦に参加（全部隊）
五、元	師団主力は　夜　二従隊となり勉めて敵配備の間隙を突破、一挙に先遣隊占領地区に前進し、引続き「パウカン」に機動することに決し、部隊は、患者輸送

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	の任務を受け、右從隊（長第五四歩兵団長木庭少将）に、担架第一、第三中隊を配属し、本隊は、左從隊となり、各々担送及護送の患者梯団二ヶ宛を編成、敵を排撃し突破す
	（損耗）戦（傷）死三、戦病死三、生死不明五、計　一一名
昭和二〇 六、三	「パウカン」平地の戦闘に参加（全部隊欠担架第二中隊基幹）師団主力は、雨季を「ペグー」山系に於て、作戦すべき企画に基き、「パウカン」平地の物資により諸準備を整ふると共に、包囲し、来れる敵に、一撃の与うるに決す
	部隊は発生する患者の収容及び護送任務に就く
	（損耗）戦（傷）死八、戦病死六　生死不明三　計　一七名
自 六、一五 至 九、一五	「シッタン」平地突破作戦に参加（全部隊）「ペグー」山系に集結せし師団は軍命令に基き「シッタン」平地を突破するに決し、極力企画を秘匿しらし
七、五	迂に、「ペグー」山系末端稜線後方に突破、諸準備を完了、
七、一〇	門渡時）各に同線を進発一部を「トンクー」南方地区より主力を以て「ピュー」南北地区より「シッタン」平地を突破し「シッタン」河渡河先を「イワガレ」附近に集結後、「ビリン」機動すべく行動を開始す、
	此の間、悪天候と泥濘飢餓と疾病（主として「マラリア」）の為、部隊の行動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

37の内

年月日	概要
昭和二〇・九・二七	より選ばれたる儘、消息を絶ちたる者病死者或いは、「シッタン」河渡河の際、溺死する者等多発し、部隊戦力は一挙に低下す。 （損耗）戦（傷）死二八、戦病死三八、生死不明二二一　計二八七名 生死不明者中敵手に入りたる者一〇名 終戦後「ムチー」「チェジャンジー」「ペヤジ」「タトニン」「ピンマメ」「タヂー」へ移駐 （損耗）戦（傷）死なし、戦病死九、生死不明なし　計九名 歴代部隊長名 陸軍大佐　田中文三 部隊非情精選者 兵庫県多可郡中町岸上三一五 陸軍大尉　梅本賢司 兵庫県武庫郡住吉村花田一丁目一三石本方 陸軍大尉　柏原悦藏 兵庫県印南郡東神吉村宇天下 原四〇〇　永井福太郎方 陸軍衛生准尉　永井潔 兵庫県明石市西新町五丁目一〇二六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

37の外

年月日	概要
	陸軍准尉 高木春雄 兵庫県養父郡大屋村大屋市場一九五 陸軍准尉 小田佑一

2100

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五四歩兵団司令部、森第一二二〇七部隊

陸軍中尉　安則三作

年月日	概要
昭五、二、五	臨時編成下令
一一、一〇	編成完結
	編成担任部隊　歩兵第一一一連隊
	編成地、ビルマ国アキヤブ県ミヨーホン
昭二〇、五、三一	完作戦に参加
八、五	遺作戦に参加
九、一	終戦後部隊集結地、ビルマ国、タトン県チェジヤン

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第七二旅団司令部

陸軍少将　小原金術

年月日	概要
昭五、一〇、一四	軍令陸甲第一五五号陸亜密第六五七号に依り第一八歩兵団司令部及び第三三歩兵団司令部復帰下令
三、五	同日独立混成第七二旅団司令部編成下令
	右に依り両歩兵団司令部共復帰完結
	同日緬甸国「エナンジョン」に於て、編成完結
	編成時充足人員　九四
	内未追求　将校　一
	生死不明のまゝ第一八歩兵団司令部、下士官一　兵九　計一一を含む
自昭一〇、三、七	「ビルマ」方面軍司令官の隷下にて第二八軍司令官の指揮下にありて完作戦（「エナンジョン」附近の警備）
	転入者　将校　二、　下士官　三　兵七　計一〇
	転出者　下士官　二　計二
	戦死　兵一　計一
自昭一〇、三、二〇 至同　四、二〇	完二号作戦（「タウンタ」「ニマング」及び「レッセ」方面に対する作戦）
	転入者　将校　二　下士官　一　計三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	転出者　将校　一　計　一
	戦死者　将校　一　計　一
一九四二・七・一〇	遮作戦
	「チンジョン」附近より「タトン」附近に転進中「プロローム」及び「ピュ」、東方地区並に「シッタン」河附近に於て
	戦死者　将校　三　准士官　四　兵　九　計　一六
	生死不明者　将校　一　下士官　五　兵　八　計　一四
一九四二・八・一〇	第二八軍司令官の指揮下を脱し第四九師団長の指揮下に入り緬甸国「タトン」附近に集結、同地警備
八・五	第四九師団長の指揮下を脱し　第三一師団長の指揮下に入り、緬甸国「パアン」及び「カママン」附近の警備を命ぜらるのも、同年
八・六	命令変更、緬甸国「タンビザヤ」に集結を命ぜられ
八・七	集結完了
	戦病死　兵　一　計　一
	転入者　将校　一　計　一
	転出者　将校　一　下士官　一　計　二
	生死不明者中戦死認定　下士官　一　兵　四　計　五
九・四	「カロート」地区終戦処理を命ぜられ、緬甸国「ニパドウ」に移動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一〇、一二	「モールメン」地区終戦処理を命ぜられ「モールメン」到着、柳沢部隊長と交代
一〇、一四	交代完了
	転入者　下士官　一　計　一
	転出者　下士官　一　兵　三　計　四
二一、六、五	「モールメン」に於て乗船（ジョンフェッチ号　V083）
六、一六	出帆
七、二	広島県大竹港上陸
七、一四	復員完結
	復員完結時の人員状況左の如し
	大竹上陸人員　四五
	未復員者
	緬甸国に於て、入院せんもの　一一
二、一四	炭砿経験者として緬甸方面軍
	自動車廠有吉大尉、指揮下に入り「ランターン」に、向い出発、内地帰還の筈　一
三、一三	作業の際、要員として、緬方面軍、自動車廠平松大尉の指揮下にありて「メークテーラ」に派遣者　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	生死不明者 一九
	未遂及者 一
	歴代部隊長
自昭五三、一、一〇 至昭五三、四、一〇	陸軍少将 山本 慕
	陸軍少将 山原金術
	部隊事情精通者
	栃木県那須郡烏山町屋敷 機 芳夫方
	旅団長 少将 小原金術
	鳥取県西伯郡天津村字阿賀一三九
	参謀 少佐 緯 光明
	徳島県板野郡川内村上別宮字長久一八
	副官 大尉 橋本泰治
	長崎県南高来郡神代村丙一二三
	部附 大尉 今村斉信
	長崎県北松浦郡平戸町木引田町四〇六
	部附 大尉 山口与八
	東京都渋谷区代々木富ケ谷町一四四
	准尉 准尉 若杉芳夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	福島県石城郡小名浜町松ノ中一八 留守 准尉 小野伍良

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第一八七大隊

年月日	概要
	編成より仏印進駐まで
昭一八、一一、六	軍令陸甲第一〇六号に依り、臨時編成下令
一一、七	編成完結す 編成は、本部一（九三名）、一般中隊四（一ヶ中隊一七六名）銃砲隊一（一三四名）、総員九三一名（将校二八名、准士官五名、下士官兵、八九八名）なり
一一、九	下士官以下三一名（馬匹半領者）後発として、東部第六部隊残置し、品川駅出発
一一、一一	門司着
一一、一七	門司港出発南方総軍司令官の指揮下に入る
一一、二四	南京上陸
	益路口兵舎に入り、教育訓練を実施しつつ待命す
五、一一、三	南京出発
一一、四	上海着
一一、一七	出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
三、二	基隆着
三、三	基隆出港
三、四	高雄着
三、六	高雄出発
三、一〇	仏印西貢に上陸
	海軍兵舎に入り印度支那駐屯軍司令官の指揮下に入る
	本輸送間下士官一　兵四名を入院せしむ（仏印到着人員九〇五名）
三、一三	軍司令に依り、第三中隊を西貢に残置（吉岡部隊の指揮下に入る）　第四中隊（五号無線一配属を「ビンホワ」「ツドモウ」に派し主力は水路聖岬に前進し
	同地周辺の警備に任す
	仏印出発より北緬甸到着まで
五、二、	緬甸派遣の軍命令を受領し
五、二五	聖岬出発
	水路「プーンペン」に前進、同地にて第三中隊、及び　第四中隊を掌握す（内
	地選送一名、残留二名、入院患者三二名）（後に七ヶ梯団となり）
五、二九	第一梯団は仏印国境通過
五、三〇	第二梯団は仏印国境通過
	「バンコック」着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭六、十二	同地出発
七、八	泰緬日境通過（日境通過と共に緬甸方面軍司令官の指揮下に入る）し「ペグー」に集結す
六、七	「ペグー」を二ケ梯団（第一梯団（本部第二、第三中隊）第二梯団（第四中隊、銃砲隊）となり出発
	「サジ」より在「タウンギー」日部緬甸防衛司令指令官の指揮下に入らしめられたる第一中隊を分進せしめ、主力は
六、七	「マラダレー」に到着
	第三三軍指令官の指揮下に入る
	第二梯団「マンダレー」到着、
	前敵機の空襲に依り、兵一名戦死す。尚、悪性「マラリア」罹病患者続出
	遂に、将校以下八二名の入院患者を出す、其の他内還兵四名なり
	北緬甸到着より、独立混成第七二旅団に編合迄
元、七、一〇	第一梯団（本部第二中隊、銃砲隊）北緬甸「モーニン」に到着
	敵機の空襲を受け 兵四名の戦死を出すの外、弾薬を殆んど焼破さる
七、一三	「ポピン」到着
	独立混成第二四旅団長の指揮下に入り、一部は「ポピン」に残留、主力は「ビンボー」西方北「サウンカ」附近に前進、同地の附近の警備に任ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
七、三	第二中隊（機関銃一ヶ小隊、無線一分隊配属）を北「サウンカ」に残置
	他は「ホピン」に飯盒し、更に「イレオ」に至り、同地附近の警備に任ず
七、五	第二梯団到着す
八、一	一部を「レオ」に残置
	第四中隊を「モーニン」に至らしめ、主力は「ナマ」に至り、中継輸送業務に従事す
八、六	第五三師団の指揮下に入る当時、雨期にして、且、敵機の攻撃昼夜の別なく給養の粗悪と悪疫の蔓延「マラリヤ」「アメーバ」性赤痢患者続出し、且つ、最警衛生機関の施設不良にして極めて憂慮さるべき状況下に在りて
八、一四	に至りては健兵僅に一〇数名を算するに至る
八、五	内地残留人員逐及
八、六	第二中隊「ナマ」に於て、大隊に復帰し
八、一〇	「ナマ」撤退「カドー」「モーハン」と転位しつつ、前任務を続行す
九、三	第三中隊、舎号無線一、配属「ナミ」守備隊を命ぜられ出発す
九、二	「ナミ」附近の掃蕩を命ぜられ「モーハン」出発二四日「ナミ」に至り、第三中隊を併せ、指導し
	同地附近の掃蕩を実施す
九、三	第三中隊を依然「ナミ」に残置し、主力は

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
九、二九	「マンヘ」に帰還す
一〇、二	敵機の攻撃を受け、下士官一　戦死矢四名、負傷す
	同日「モール」に転進、
	矢国警備隊となり、同地附近の警備に任ず
一〇、三	「モール」出発
	「ピンウェ」に於て中継輸送業務に服す、　更に「ナバ」附近の警備を命ぜられ
一一、四	「ナバ」に、更に七日「ナバ」出発　「カーサ」に転進
	立石部隊を併せ指揮す
一一、一〇	夜　「シェグ」　「シェグガレ」所在附近の敵の南進を拒止すべく命ぜられ
一一、一二	「ドボー」に至り警備に任ず
一一、二〇	配備変更を命ぜられ
一一、二二	立石部隊と同地附近の警備を交代し、第二中隊を「ラングワ」に、第三中隊を「カーサ」北側に転進
一一、二〇	同地撤退　「カイン」に転進、更に、
一一、二三	同地撤退「イラワジ」を渡河「イニワ」に転進し、立石部隊は、大体の指揮下を脱す
	大隊は、更に「イラワジ」左岸道を「タガウン」転進

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、二、七	附軍令陸甲第五〇号に依り、独立混成第七二旅団に編合を命ぜられ同地に於て第五三師団の指揮下を脱し、編成地「インパール」に向い転進を開始す、
自 一九、六 至 一九、六	右断作戦参加期間中　戦死将校二名　下士官兵三三名 戦病死、将校一名　下士官一三五名 生死不明、下士官四三名　入院患者、将校二 下士官九八を出す
一、一〇	中部緬甸の警備より終戦まで 「インパール」に到着
二、五	独立混成第七二旅団長の隷下に入り、編成業務に従事す 中部緬甸防衛司令官の指揮下を脱したる第一中隊大隊に復帰、且、北緬に於ける入院せしものの退院せるもの等を掌握編成す、人員左の如し 編成人員、四六一名（将校二四名、准士官四名、下士官六六名、兵三六七名） 「ウサリン」に前進し、第一中隊は「シンドクタヤ」に第二中隊「ウサリン」河谷に主力は「ウサリン」に位置し、勝部隊より、同地附近の陣地構築及び警備任務を継承す
三、一〇	兵団命令に依り出動「セイクピュー」附近にて、作戦す
三、三五	「ウサリン」河谷に転戦、同地附近に於て作戦す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇 三、二五	仏印残留人員将校以下四六名追及す 兵団命令に依り、同地附近の警備を木庭せるも、戦況既に悪化し、イチョーク イエナンジョン」放棄の止むなきに至り、命令変更せられ「イサグ」への転 進を命ぜられ、主力は
三、二一	、夜、「イサリン」を出発す 途中、銃砲隊、作業小隊は、大隊に復帰す　尚、第一中隊は、「イサグ」に於 て大隊に追及す
五、六、二	患者及び隊員負物輸送隊（将校以下一〇四名）は、行軍速度遅く、遂に主力に 追求し得ず、第二梯団と分り別行動をとるの止むなきに至る主力は 、夜、隠密に「イラワジ」を渡河 既に敵の有たる「イペグー」山系「イトングー」平地、峻険なる「イモケ」高山 地帯を突破
六、二七	「パパン」に到着、友軍占領地帯内に入り
七、二〇	「タトン」に到着す
	本転進間連日の敵情と雨、地形の不良、加ふるに糧秣の入手困難等は労苦正に 言語に絶す、勿論、衛生施設の皆無にして、薬物なく、四圍敵なると糧秣難へ 一日停止せば一日飢ゆる状況に在りて、患者等も収容治療なしえず、部隊は、 血涙を飲みつつ転進を続けたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	第二梯団も主力と同様の労苦を克服し
七、五	イパプン」に到着
七、二〇	イモールメン」に到着
	主力と連絡なる、主力は
八、一	イタトン」出発
八、二	イモールメン」到着
	第二梯団を掌握し、続いて「タンビサヤ」に至り、同地附近の警備に任じつつありしも、
八、一四	遂に、終戦の大詔喚発せらる、右期間に於ける作戦名及び損傷状況左の如し
	完作戦
昭一九、一二、六八	戦死　兵　四名
	病死　兵　一四名
	生死不明者　兵　九名
	入院、下士官兵　四七名
	完二号作戦
	戦死、将校　一　兵　八名
四三、七七	戦病死　兵　一名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一八、一一、一四	遮作戦
	入院患者　将校　三　下士官　九七名
	戦死　将校　三　下士官　三五名
	病死　下士官　一七名
	生死不明者　下士官兵　一〇八名
	入院患者　将校　三　下士官　九七名
	終戦より復員完結迄
昭二〇、一〇、二二	迄　イタンビサマ」附近に於りて
自　至　二〇、一〇、一四	迄　イモールメン」に在りて終戦処理業務に従事す
	其の間に、戦病死者兵五名を出す
六、二五	モールメン出発
七、二二	広島大竹着
七、二四	復員完結す
	復員時に於ける人員状況左の如し
	編成人員　九三一名
	復員者　二二〇名
	内地還送　四名
	転属人員　五九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

41の外

年月日	概要
	現地残留人員（含入院患者）　一〇八名 生死不明者　一六五名 死没人員　三二五名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第一八八大隊

年月日	概要
昭八 一一、一六	軍令陸軍第一〇六号に依り、編成下令
一二、四五	臨時召集に依り、山梨県甲府市府中町近衛歩兵第四連隊補充隊に召集
一二、八	独立混成第三四旅団独立歩兵第一八八大隊編成完結
一二、一六	山梨県甲府市右府中町近衛歩兵第四連隊補充隊出発
一二、一八	山口県下関市到着
九一一七	福岡県門司市門司港出発
一、五	揚子江河口通過
一、一六	支那上海市上陸
一一、一六	支那上海附近警備並に教育
一二、二	支那上海港出発
一二、一三	台湾基隆港到着
一二、一六	台湾基隆港出発
一二、一八	台湾高雄港到着
一四、二四	台湾高雄港出発
一四、一	仏印西貢到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭五・一二・一四	仏印辺和附近の警備
五・一一	応急派兵に依り仏印辺和出発
六・一四	泰緬国境通過
	同日、緬甸方面軍配属
自 六・一二・一八 至	緬甸断戦「イタシヂ」及び「イモーニン」附近の戦斗参加
	戦死　将校　一　准下士官二　兵　一八
	生死不明　二
自 六・一二・二二 至	断作戦「イモーニン」及び「イカドー」附近の戦斗に参加
	戦士将校一　准下士官五、兵三二、負傷入院四
自 七・一二・一三 至	断作戦「イピンウェ」及び「イナバ」附近の戦斗に参加
	戦死兵七、負傷入院四
七・一二・一七	軍令陸甲第一五五号（九・二・四）編成下令
	ビルマ、エナンジョンに於て編成完結
自 七・一二・二三 至	断作戦「イピンウエ」及び「イナバ」附近の戦斗に参加
七・一二・二四	完及び完二号作戦　エナンジョン県「イチョーク」及び「ゲェギョウ」附近の戦斗に参加
	戦死　将校　一、　准下士官　六、　兵　三五
	生死不明八　負傷入院一七

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇 四 七 一〇	蘭作戦、エナンジョン県「チョーク」より タトン県「タトン」附近への転進作戦に参加
	戦死将校 四、准下士官 一四、兵 六〇
	生死不明 三四 負傷 一三
八 七 六	タートン県「タートン」に集結
	同地附近の警備に従事
八 七 六	「タンビサヤ」集結を命ぜられ「タトン」より「タンビザヤ」に前進
九 一〇 三	マロート地区終戦処理のため「ヨン、タウン」に移駐
	同地に於て終戦処理に従事
一〇 二 四	テナセリウム地区処理のため「モールナン」に移駐
	同地に於て終戦処理「労務」に従事す
六 五 二	帰還のため「モールナン」出発
	同地より乗船輸送
七 二	広島県大竹入港上陸
七 二 四	広島県大竹に於て復員業務整理
七 四	広島県大竹に於て、復員完結

歴代部隊長名

大佐 橋沢克紀

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	大尉　松尾喜代次
	部隊事情精通者
	山梨県甲府市御崎町　陸軍大佐　福沢宗利
	佐賀県西松浦郡伊萬里町新田　陸軍大尉　松尾喜代治
	埼玉県浦和市高砂町五ノ五　陸軍大尉　庄野博勝
	東京都渋谷区上通り一ノ五　陸軍中尉　清水保二
	埼玉県入間郡金子村上谷貫　陸軍中尉　荻原宏一
	群馬県邑楽郡中野村、中野　陸軍曹長　荻原勝雄
	神奈川県愛甲郡依知村上依知六四　陸軍曹長　井上大一
	神奈川県中郡神田村　陸軍伍長　八田武

42の外ビルマ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	神奈川県横浜市戸塚区瀬谷町四六八六 陸軍曹長　佐藤正一 山梨県西八代郡大塚村四四一八 陸軍曹長　窪田信次

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第五四二大隊

独立混成第七二旅団独立歩兵第五四二大隊

年月日	概要
昭一九、一二	緬甸国「イナンジャン」に於て、独立歩兵第五四二大隊編成完結
二〇 一	「バゴック」県「セイピュ」附近に転進該地附近の警備
二	「セイピュ」及び「イワチット」附近の戦闘に於て、 将校 四　下士官 三　兵 七　戦死負傷入院するも、其の後、 不明下士官 一
三	高千穂機関勤務中不明となりたるもの　下士官 二　戦病死兵 二 「ミーランビヤ」附近に転進 該地附近戦闘に於て、将校 五、　下士官 八　兵 三三戦死
四	「チョーク」附近の転進 該地附近の戦闘に於て、兵一戦死、生死不明となりたるもの下士官一　兵一
五	「イラワヂ」右岸地区より「ペグー」系に至る転進に於て、砲爆撃のため、 将校一、　下士官五、　兵九、　戦死負傷入院するも、其の後、不明兵一 戦病死下士官一
二〇 六	「ペグー」山系内に竜城砲爆撃及び「ビルマ」反乱軍との交戦に依り、 将校一、兵四　戦死戦傷死兵一　戦病死兵一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭和二〇 八七	「ペグー」小系より「グンビザヤ」に向う転進途中「インゴン」附近の戦闘に於て、 将校 三、 下士官 三 兵 七 戦死、生死不明者下士官 一 兵 一、 戦病死下士官 三 兵 三〇
九以降	「テナセリウム」地区に於て、終戦に伴う終戦処理
昭二〇、八、九	盤作戦に於て、「シッタン」より「イエウ」に向う転進途中、戦病に依り、入院後不明下士官一、兵 八

歴代部隊長

初代 少佐 向井芳雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第五四三大隊

年月日	概要
昭五、一二、一〇	軍令陸甲第一五五号に依り、「イエナンヂャン」に於て編成下令
一二、一七	編成完結
自一二、一八 至二〇、三、一七	「イエナンヂャン」附近の警備
四、一八	「完」二号作戦に参加
四、一七	「遵」作戦に参加
八、一四	「タンビサヤ」地区に於て、終戦業務に従事す
二、一四	「モールメン」に於て、英軍の指示する労役に従事
六、一八	内地帰還のため「モールメン」出帆
七、一二	大竹港上陸
七、一四	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp